

# 血液培養より人工弁による 感染性心内膜炎患者から検出された *Weissella confusa* の1症例

亀田総合病院 臨床検査部  
戸口 明宏



Organization Accredited by  
Joint Commission International



# はじめに

- ★ *Weissella* 属ムラグは陽性桿菌で、*Lactobacillus* 属りよ移籍たれさ菌種である。
- ★ 今回、血液培養りよ人工弁るよに感染性心内膜炎 (IE) 患者らか検出たれさ *Weissella confusa* の1症例を経験のたしで報告する。

# 症 例

★ 66歳女性。

## 【既往歴】

★ 5年前に大動脈弁狭窄症、慢性心不全のため大動脈弁置換術を当院心臓血管外科にて施行。

# 主訴及び経過

- ★ 8月17日：呼吸苦が悪化し咳、痰も増加。
- ★ 8月20日：症状が日にとご悪化めたるす当院救急受診。慢性心不全るよに急性増悪と診断され入院となった。
- ★ 同日夜に38℃の発熱を伴い、入院時抗菌薬開始前に採取たし血液培養から3トッセ陽性となりグラム陽性桿菌が検出された。
- ★ 人工弁に関連たしIEと診断れさ、加療開始となった。

# 検査所見①

66歳 女性

## 血液・凝固・生化学的検査 (2012/08/20)

WBC	66 × 10 <sup>2</sup> /μl	総蛋白	6.1g/dl
RBC	404 10 <sup>4</sup> /μl	ALB	3.4 g/dl
Hb	11.3 g/dl	AST	18 IU/l
Ht	34.5 %	ALT	16 IU/l
MCV	85.4 fL	<b>LD</b>	<b>238 IU/l</b>
PLT	21.3 10 <sup>4</sup> /μl	ALP	212 IU/l
		総ビリルビン	0.6mg/dl
PT (INR)	1.05	CK	77 IU/l
PT (%)	90.7 %	BUN	14 mg/dl
PT (秒)	12.6 秒	CRE	0.66 mg/dl
APTT	27.6 秒	Na	144 mEq/l
		K	3.9 mEq/l
		<b>Cl</b>	<b>110 mEq/l</b>
		CK-MB	4 IU/l
		Glu	101 mg/dl
		<b>CRP</b>	<b>3.22 mg/dl</b>
		<b>BNP</b>	<b>578.7 pg/ml</b>

# 検査所見②

66歳 女性

(2012/08/20)

## 血液ガス

PH	7.431
PCO2	35.4
PO2	88.8
HCO3	23.2
BE(vt)	-0.3
O2(CT)	14.7
O2SAT	97.5
Na	142
K	3.8
Cl	109
Hb	10.9

## 尿定性

PH	6.5
比重	1.009
尿蛋白(定性)	(-)
ブドウ糖(定性)	(-)
潜血	(-)
アセトン体	(-)
試験紙白血球	(2+)
亜硝酸	(-)

## 尿沈渣

赤血球	1~4=
白血球	10~19=
扁平上皮	5~9ミマン
細菌	(±)

# 血液培養検査

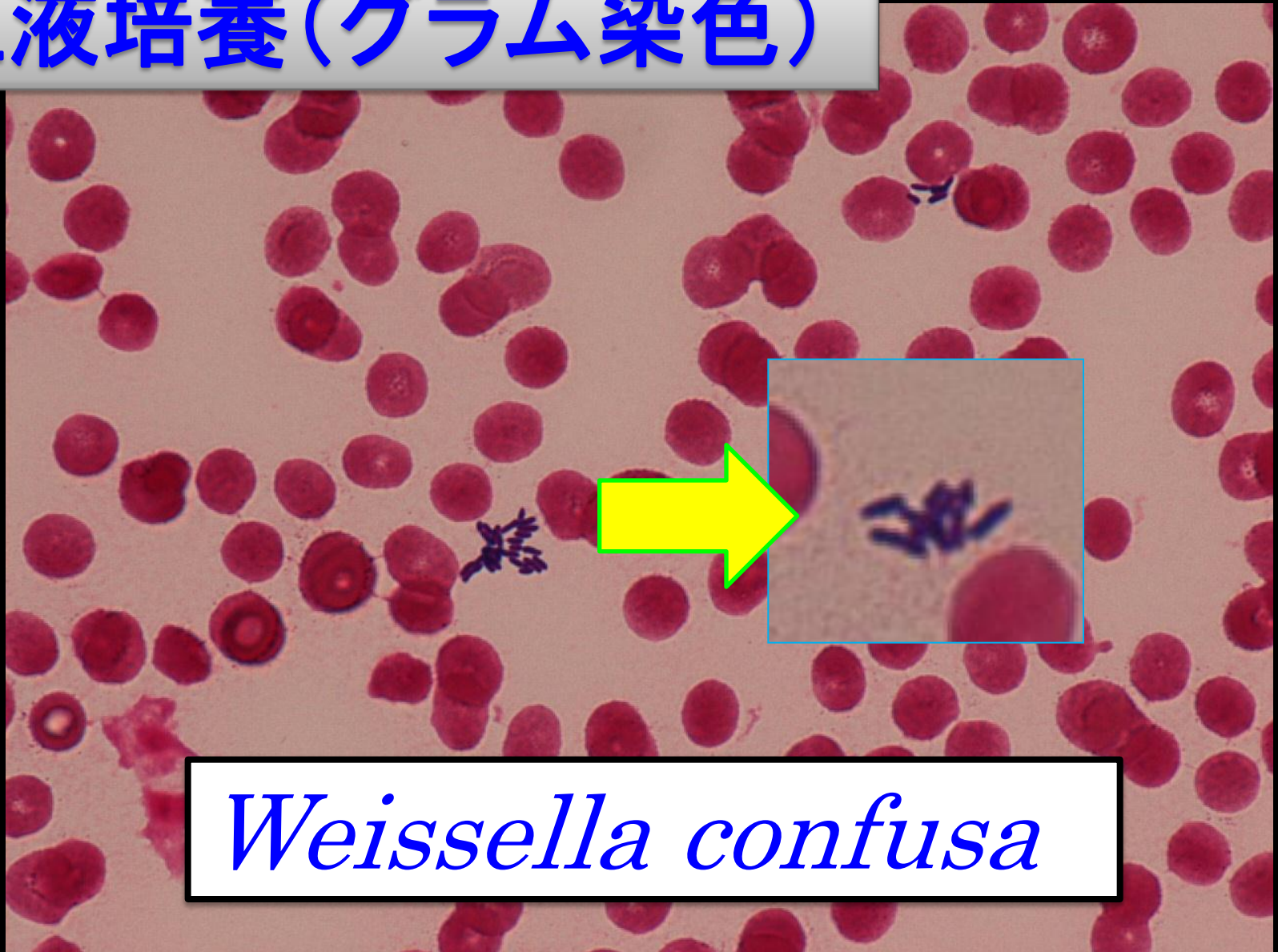
(2012/8/20 採取)



- ★ 血液培養 (BACTEC FX/BD) にて 1日培養で陽転
- ★ グラム染色所見にて Coryneform のGPRが観察された。



# 血液培養(グラム染色)



*Weissella confusa*

X1000倍



# 培養結果

【尿培】(2012/08/20 採取)

培養結果  $10^2$

I *Viridans* sp. (少数)

II GBS(少数)

III CNS (少数)

【痰培】(2012/8/20 採取)

培養結果

Normal flora

【血培】(2012/08/20 採取)

Gram所見

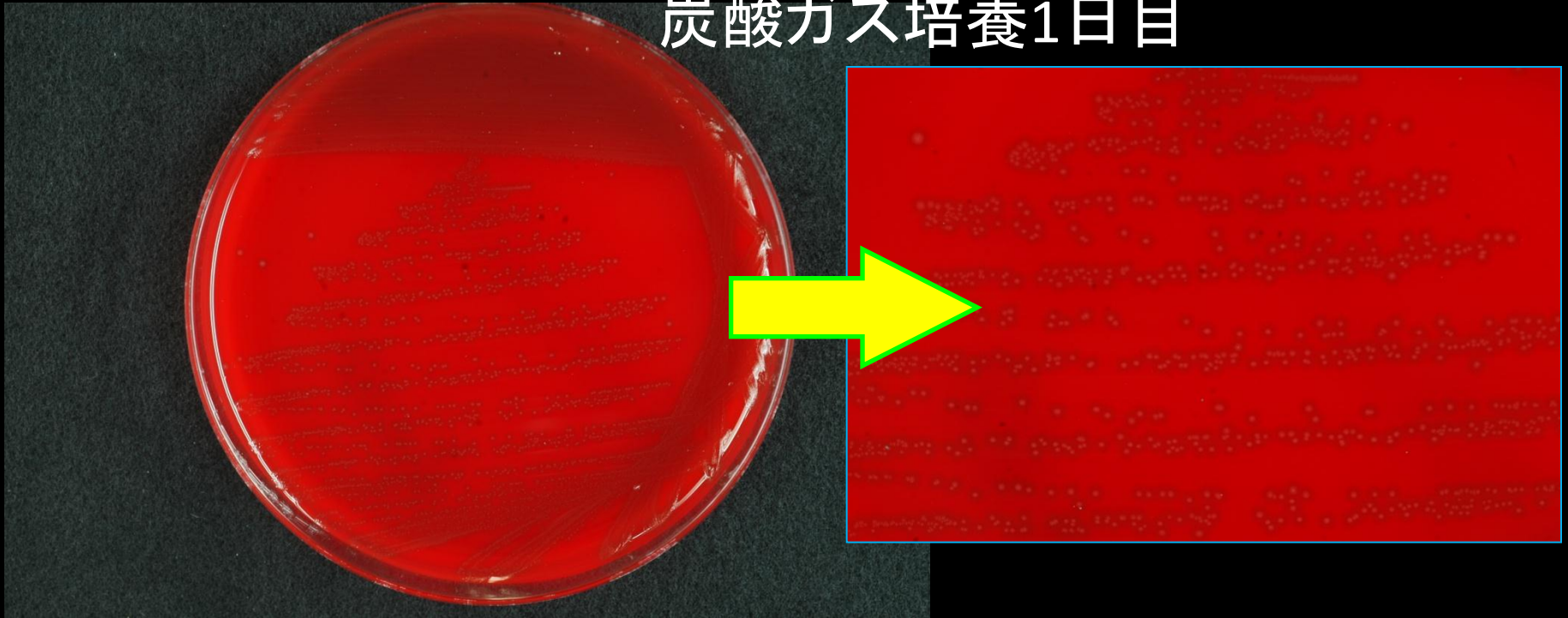
GPR (陽性)

培養結果

*Weissella confusa*

# *Weissella confusa*

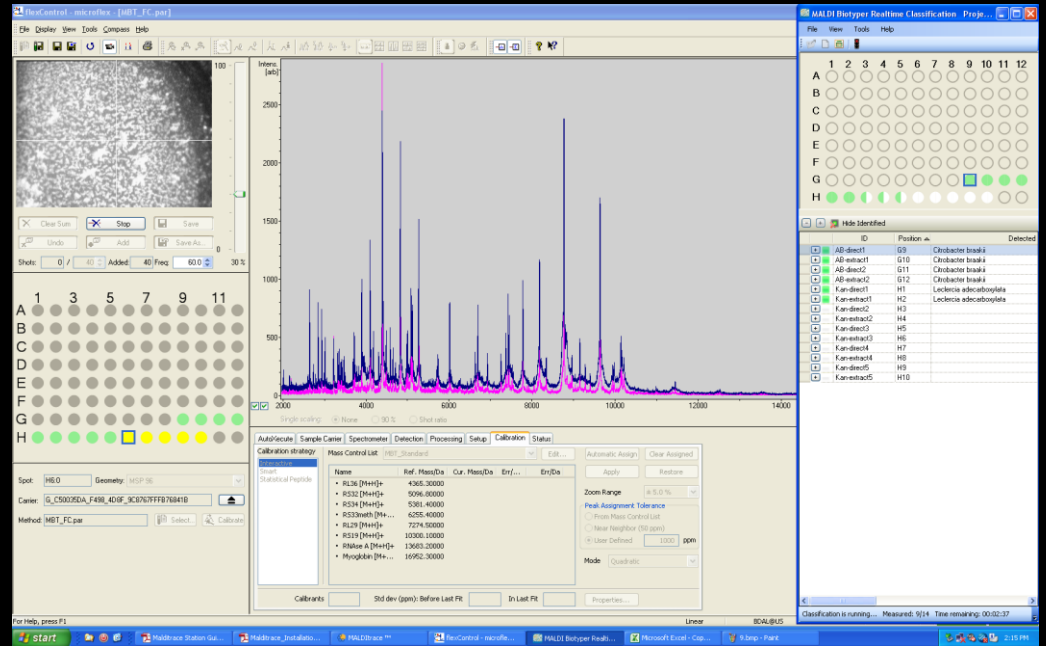
TSA 5%ヒツジ血液寒天培地 (BD)  
炭酸ガス培養1日目



直径1mm前後の $\alpha$ 溶血した集落

# 微生物・遺伝子学的検査

- ★ 市販同定キットで同定を試みたが同定不能となった。
- ★ 16S rRNA塩基配列解析の結果、  
*Weissella confusa* と同定された。



*Weissella confusa*

# 微生物学的(感受性)検査

★ CLSI法: M45-A を準拠

VCM: > 16      ABPC: 0.5      GM: <= 2

TEIC: > 16      PCG: 0.25

CLDM: <=0.12

LZD: <= 2

MEPM: 0.5

★ Eテスト:ダプトマイシン 0.125 (VCMで発赤が出現したため

DAPに変更)

ドライプレート(栄研)

ミュラーヒントンブロス(MHB)+栄研SHS(栄研)

• 培養条件

35°C好気培養 24~48時間好気培養

# まとめ

- ★ IEや難治性症例の原因菌には発育困難な菌種や変異株が存在する事がある。
- ★ *W. confusa* によるIEは極めて希少であり、同定に難渋する菌種などは、遺伝子検査を積極的に実施し正確な菌種の同定を行うことにより、適切な治療方針を決定するうえで非常に有用である。今後とも血液培養から分離される菌について臨床所見、患者情報などを注意深く観察し検討を重ねていきたい。

ご清聴ありがとうございました

